

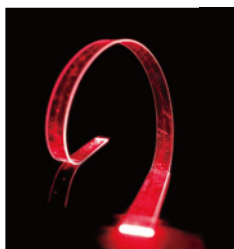
樽廻船



日本の知恵、
プラスチックの知恵

鮮度も競い合った、
新酒の帆船レース

いまではボジョレー・ヌーヴォーなどの新酒が航空便で簡単に届きますが、18世紀の江戸時代には新米で作った酒を「新酒番船」と呼ばれた樽廻船で、冬の荒れた海を命がけて運んでいました。1790年(寛政2)には、西宮や灘の酒どころから江戸まで通常は約一カ月かかる航路を、58時間という驚異的なスピードで運んだという記録が残っています。これは、帆船である樽廻船を操る技術を競うレースとして、恒例になっていたのだとか。重い酒樽を大量に積載し、いかに海水を被らずに運んで褒美の新酒を獲得できるか、それは船乗りたちの腕の見せどころでもありました。鮮度のいい新酒を大量に運んだ樽廻船。それは次世代の光電気複合配線モジュールとして、高速で省エネ・省スペース化、大容量のデータ伝送を可能にした「光導波路」の発想にも似ています。



光導波路

次世代スーパーコンピュータは、「超高速」で「膨大な量」のデジタル信号を伝送するために、新たな光伝送技術の導入が必要とされています。住友ベークライトが開発した光導波路は、この光技術を支える新しい信号伝送材料として、未来の暮らしを支えます。

プラスチックのバイオニア

住友ベークライト株式会社

<http://www.sumibe.co.jp>

技術部

〒140-0002 東京都品川区東品川二丁目5番8号 天王洲パークサイドビル TEL:03-5462-4061 FAX:03-5462-4897